

「平和のありがたさを」

6年生 学習通し、劇で伝える



学習発表会で平和劇を上演する6年生

聖郷小は平和学習を通して一人一人が平和を大切にすることを目指している。6年生は2学期に入り、沖縄戦や大山口列車空襲などについて学んだ。

沖縄戦については、那覇市の高良小6年生や繁多川公民館の方々にリモートで話を聞き、平和や戦争について理解を深めた。

6年生は、戦争の恐ろしさ、大切なものが奪われる悲しさ、平和のありがたさを伝えたいという思いを込めて、平和劇を上演した。



大山口列車空襲慰霊の碑近くでフィールドワークをする6年生

沖縄戦や大山口列車空襲など

聖郷小は平和学習を通して一人一人が平和を大切にすることを目指している。6年生は2学期に入り、沖縄戦や大山口列車空襲などについて学んだ。

沖縄戦については、那覇市の高良小6年生や繁多川公民館の方々にリモートで話を聞き、平和や戦争について理解を深めた。

6年生は、戦争の恐ろしさ、大切なものが奪われる悲しさ、平和のありがたさを伝えたいという思いを込めて、平和劇を上演した。

思いと平和や命のバトンをつないでほしいという思いから、学習発表会で平和劇を上演した。

「命どう宝」(命こそ宝だ)というテーマで劇をし、5年生以下の児童たちにも演技で平和のありがたさを伝えた。

そして戦争の影響などが、私たちの故郷や自分の身近な所にもないのか、調査活動を行った。

6年生は、実際に大山口の大山口駅前にある大山口列車空襲慰霊の碑を訪れてフィールドワークを行い、大山口列車空襲遺族の方々にも話を聞いた。

古山かんざん(6年)は「遺族の方々が一生懸命に平和の大切さを伝えていて、すごいと思いました」と述べた。

(日置教也、生田琉翔、尾古いろは、上村夏音)

聖郷小新聞

学校概要

【学校名】 琴浦町立聖郷小学校
 【所在地】 東伯郡琴浦町529
 【校長名】 河野俊隆
 【児童数】 118人
 【教育目標】 故郷に誇りをもち、主体的に行動する子どもの育成
 【沿革】 平成26年4月、東伯小・古布庄小が統合して開校

NIE Newspaper in Education

5年生が作った新聞です

食べるまで どれだけの 手間がかかる?

5年生

聖郷小の5年生は、毎年米作りに取り組んでいる。バケツで稲を育てたり、収穫した米を脱穀したりする体験を通して、農業の大変さと大切さを学んだ。

田植は昨年5月に学校近くの田んぼで行われた。町内の保育園の子もたちと交流して田植を体験した。

バケツ稲では、まず塩水選を行い、地域のボランティアの桑本慎吾さんに方法を

米作りの大変さを体験



千歯こきに一生懸命チャレンジする5年生

を教わって、一人が一つのバケツ稲を育てた。夏休みには各自が家に持って帰って大きく育てた。

昨年11月には、収穫した米を千歯こきや足踏み脱穀機などの昔の道具を使って脱穀する体験をし、昔の道具の大変さを学んだ。

桑本さんは「食べるまでにどれだけの手間がかかっているかを知ってほしい。わらは、しめ縄やたい肥に使われる」と話した。

5年生の小倉葵さんは「今までの作業の中で田植が一番楽しかった。特に土をこぼしたのが楽しかった。そして世話が楽だった」と振り返った。

児童は、この体験を通して、米だけでなく野菜などの大切さや、地域の自然と農業の良さについても考えた。

(前田美音、手嶋銀士、山本創士郎、山本莉愛)

故郷に誇り

見て聞いて 面白いて ★

全校でおはなし会

ボランティアの読み聞かせを聞く1年生



聖郷小では、月に2回、朝読書の時間に「おはなし会」が行われる。児童は学年ごとに各教室に分かれて、ボランティアの方が選んだ本を読み聞かせしてもらう。

教室からは、笑い声や拍手の音、驚きを隠せない声が聞こえてくる。

おはなし会は、1年生にとって地域の方との交流の場にもなっている。1年生の上口千夏さんは「見たり聞いたりしたことのないお話が聞けるのが面白い」と笑顔で話した。

読み聞かせボランティアの陰山仁美さんは「本選びは、まず自分が楽しい本、そして読み聞かせをしている相手が興味を持つような本を選んでいく。読み方は、ゆっくりと相手に伝わるように丁寧に読むことに気をつけている」と述べた。

児童は、ボランティアの方が読んでくださる本を毎回楽しみにしている。

(岡本あおい、山元樹里、伊藤大輝、横山陽太)

地域の自然に触れて

町内の巨木巡り

3年生



迫力が
すごい!!

聖郷小の3年生は、毎年11月ごろ、琴浦町内に残る巨木巡りを地域の方の協力でやっている。この学習は、児童に町内の自然を知ってもらい、興味を持ってもらうのが目的だ。

児童が巡る巨木は、大イチョウ、大シイ、大杉など。特に同町宮場の大シイは「伯耆の大シイ」と呼ばれ、国指定天然記念物にもなっており、迫力があり有名だ。児童たちも目が離せなくなった。

採ったぞー!

2年生



タケノコを掘り出して笑顔を見せる2年生

聖郷小の2年生は、毎年4月の終わりごろ、琴浦町の竹林でタケノコ掘りにチャレンジしている。地域の方の指導で、児童は掘り方のコツなどを学んだ。タケノコ掘りは、手で掘ったり、慣れないくわで掘ったりして大変だが、みんなで協力しながら、顔の大ききほどのタケノコを掘り出した。掘ったタケノコは、各自が家に持ち帰った。

(河本晃生、小畑亮介、小倉葵、秋田寧々)



山下さんの話を真剣に聞く4年生

治水や先人の努力を知る ため池「大法堤」の歴史学ぶ

4年生

聖郷小の4年生23人は、昨年9月21日、琴浦町森藤にあるため池「大法堤」に詳しい。4年生の宮本飛鳥さんは「関連の池の歴史が分かって、100年いって学んだ。学習することで、水の上からあることを知り、びっくりした。歴史が受け継がれていくことが分かった」と話した。

山下さんは、水の大変さや作るの大変さを知ってもらいたい。4年生たちは山下さんに教えてもらったことを感謝し、関連の池の歴史や、昔からある地域の池を詳しく教えた。児童は、集中して話をしっかり聞いていた。

説明を受けた4年生は、大法堤だけなく、近くの関連の池にも行って、一生懸命に話を聞いて貰った。

(信組暖太、大崎優月、御古ひかり、門脇一夢)